

感染症対策・



調査センター



2025(令和7)年2月1日

第 11 号

編集
発行

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター

〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目207番地

電話 737-3712 FAX 736-1102

Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)



YouTubeチャンネル

当センター(衛生研究所業務課)の
ホームページなどはこちらから



その咳、もしかして結核では!?

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症が起きる病気です。

「結核は過去の病気」と思われがちですが、今でも1日に28人の新しい患者が発生し、5人が命を落としている日本の重大な感染症です。

最初は風邪に似た症状で始まりますが、たんの絡む咳・微熱・身体のだるさが2週間以上続いている場合は要注意です。早めに受診しましょう。

結核ってどういう病気?

症状は?
どうやってうつるの?

症状は、咳、たん、血たん、胸痛、発熱、体重減少、だるさです。

菌のうつり方は、しぶき(飛沫)やその周りの空気を吸い込む(空気感染)です。



結核菌を吸い込むと皆にうつしてしまう?

感染の段階で人にうつすことはありません。感染してもおよそ8割は発病しません。ただし、病気をしたり、からだが弱ったりした時(免疫低下)に発病することがあります。

感染：人にうつさない
発病：人にうつす



結核の治療は? かからないようにするには?

結核にかかったら、感染した人は発病しないように、発病した人は治るように、お薬を飲みます。お薬は基本6か月、長い人だと9か月~1年飲み続けます。

結核は予防が大事!

- ・普段から、食事、睡眠、運動など、健康的な生活を送って免疫力を高めましょう!



- ・症状が2週間以上続く時は、早めに医療機関を受診しましょう!
 - ・学校や職場の健康診断なども早期発見に役立ちます。
- 定期的に健診を受けましょう!



参考：厚生労働省

「蚊」と聞いて、みなさんが思い浮かべるのは、ヤブカといわれるヒトスジシマカだと思われるますが、同じヤブカ属の仲間であるヤマトヤブカという蚊はご存知でしょうか？



ヤマトヤブカ

胸部背側にある黄金色の複数のラインが特徴。ヒトスジシマカほどではないがヒトにも吸血する。



ヒトスジシマカ

市街地に夏から秋によく発生して、ヒトを好んで吸血する。胸部背側の白い1本の線が名前の由来。

名古屋市で行っている蚊の調査（CO₂トラップ法）では毎年10種類程度の蚊が計1,000頭以上捕獲されますが、ヤマトヤブカはこの10年間で3頭しか捕獲されていない比較的珍しい蚊です。

そのヤマトヤブカですが、今年度センター敷地内で調査したところ、特に5月から6月にヒトスジシマカよりも多く発生していることがわかりました（図）。ヤマトヤブカは市街地では見かけませんが、樹木や草がよく生い茂っている大きな公園や山中などに生息しており、雑木林が隣接しているセンターで多く捕獲されたものと思われる。

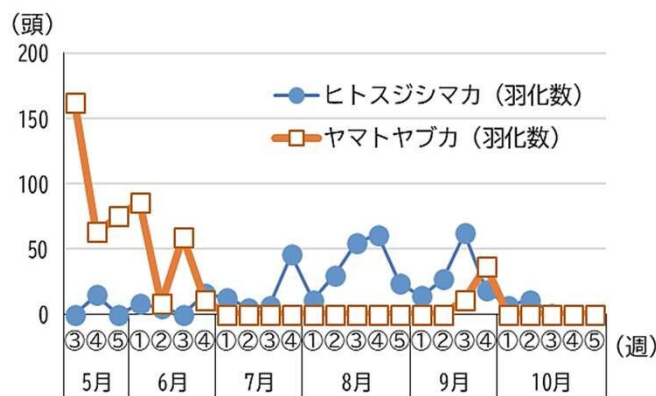


図 週ごとのヤブカ属の発生動向〔当センター敷地内〕
(オビトラップ (3個)で捕集した卵・幼虫からの羽化数)

その蚊、**ヤマトヤブカ**かも!?

初夏に、郊外の大きな公園などで蚊を見て、今年の蚊は大きいなと思ったことはありませんか？

ヤマトヤブカは、ヒトスジシマカよりも一回り大きくて黒く見えます。もしかしたら、その蚊、ヤマトヤブカであったかもしれません!?



センターからのお知らせ



薬剤散布訓練を実施しました

センターでは、浸水時の感染症発生や衛生害虫等による健康被害を防止するために必要と判断された場合に、薬剤を散布する業務があります。有事には迅速な対応が必要であるため、昨年11月に病原ウイルスを保有する蚊の駆除を想定した訓練を実施しました。

今回の訓練は、散布車（動力噴霧器を積んだ車）から遠い場所でも、効果的に散布できるように職員間で連携すること、薬剤を適切な量散布することをポイントとして実施しました。併せて、ウイルス保有の蚊が市内で見つかったときを想定して、薬剤散布までの初動対応について確認しました。

訓練では水を散布しました



散布車

